

# 徳島市水道ビジョン

～水都・とくしまの信頼のライフラインを目指して～

(概要版)

徳島市水道局

## 目 次

第 1 章	徳島市水道ビジョンの概要 .....	1
第 2 章	水道事業の概要 .....	3
第 3 章	水道事業の現状と課題 .....	4
第 4 章	徳島市水道の将来像および目標 .....	6
第 5 章	目標を実現するための施策 .....	7
第 6 章	実施体制 .....	9

## 第 1 章 徳島市水道ビジョンの概要

### 策定の趣旨

徳島市の水道は大正 15 年 9 月に給水を開始して以来、人口の増加や市民の生活水準の向上、産業の発展に伴い、増大する水需要に対応するため、4 次におよぶ拡張事業を実施し、現在に至っています。

近年は、少子高齢化による人口の減少や節水機器の普及等により、徳島市においても水需要は緩やかに減少する傾向にあります。

また、過去に整備した水道施設が今後更新時期を迎えること、今世紀前半の発生が予測されている東南海・南海地震等に備えて水道施設の耐震化等の災害対策を推進する必要があること、さらには水の安全性の確保をより確かなものとする必要があること等から、水道施設の更新・再構築が必要となっています。

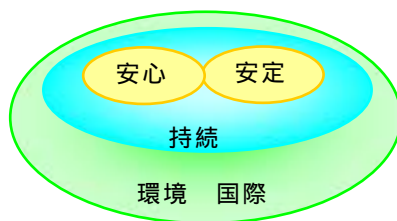
一方、水道事業経営の面でも、より計画的・効率的な経営、情報公開等による透明性の高い経営、環境に十分配慮した経営等が求められています。

このような状況を踏まえ、水道ビジョン(厚生労働省)の政策目標である「安心」、「安定」、「持続」、「環境」の視点に立って、徳島市水道ビジョンを策定し、21 世紀における徳島市水道局の事業経営の指針とするものです。

### 平成 16 年 6 月 水道ビジョン

今世紀半ばの我が国の水道のあるべき姿

世界のトップランナーを目指して  
チャレンジし続ける水道



### 地域水道ビジョン

各地域の水道のあるべき姿

事業の現状と将来見通し  
を分析・評価等

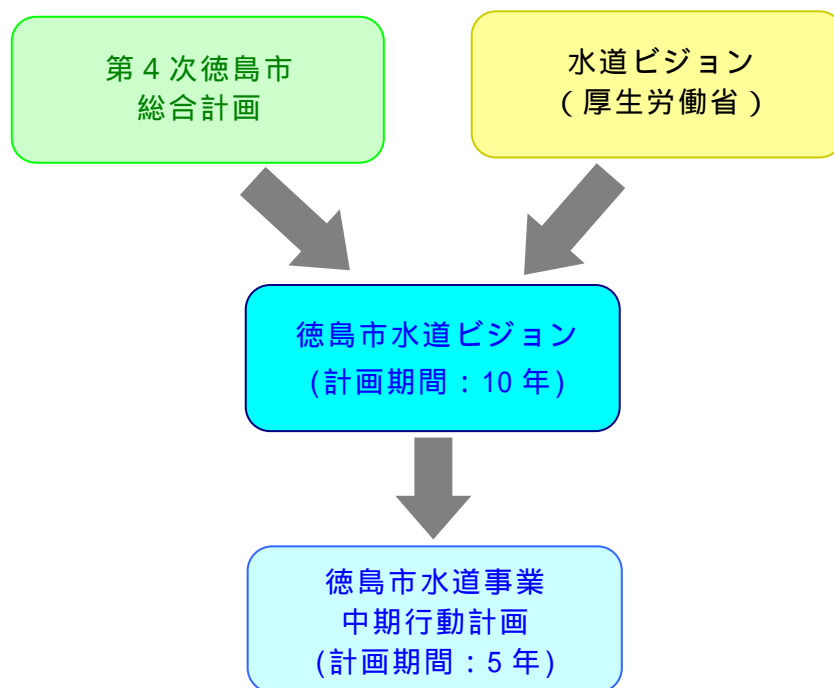
## 本ビジョンの位置付けと計画期間

徳島市水道ビジョンは徳島市水道事業の基本となる計画として、平成21年度から平成30年度までの10年間の施策の方向性を示すものであり、今後の水道事業の指針となるものです。

本ビジョンは、「第4次徳島市総合計画」及び、厚生労働省が定める「水道ビジョン」を踏まえて策定しています。

なお、徳島市水道ビジョンを実現するための具体的な施策として、「徳島市水道事業中期行動計画（計画期間：5年間）」を策定します。

## 本ビジョンの位置付け



## 本ビジョンの構成

徳島市水道ビジョンは、現状と課題を分析し、将来像及び目標を定め、各課題を実現するための施策を掲げ、それらを実施するための体制を明記する構成になっています。

## 第 2 章 水道事業の概要

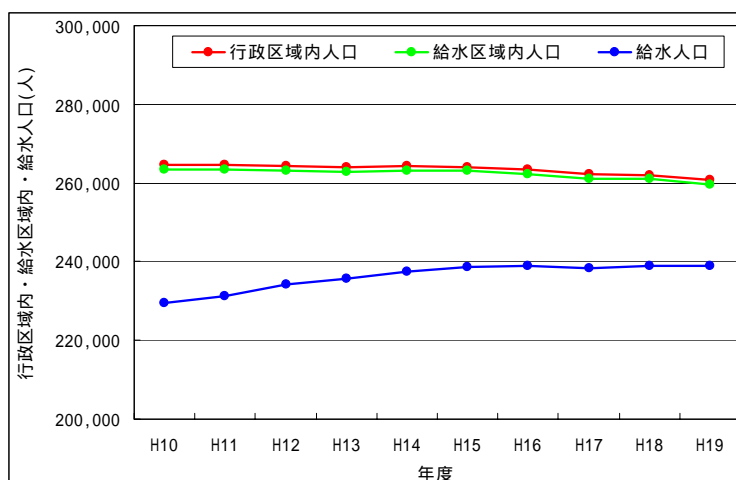
### 水需要の動向

行政区域内人口は、平成 12 年度以降減少傾向にあり、給水区域内人口もほぼ同様の状況にあります。

人口の動態について、社会動態や自然動態から見ると、徳島市においても人口減少時代が到来しているといえます。

一方、給水人口は給水普及に努めた結果、過去 9 年間で 9,282 人増加していますが、最近ではほぼ横ばい状態にあります。

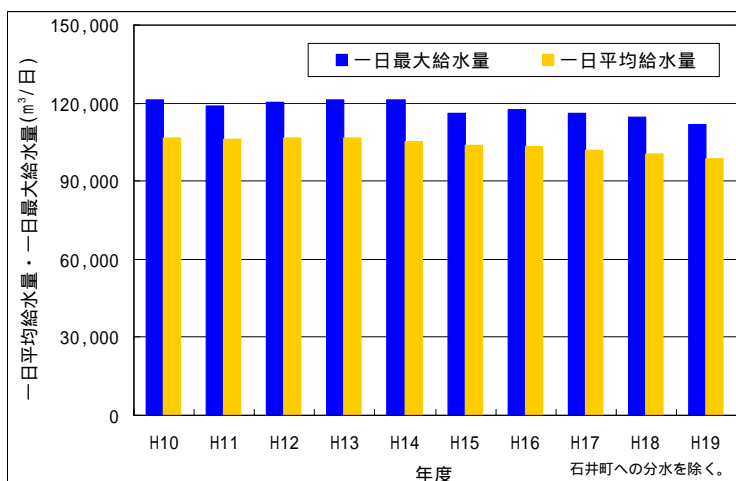
人口の推移



給水量については、基本的に減少傾向にあります。

過去 9 年間で給水人口が増加傾向にあるにもかかわらず、給水量が減少している要因としては、長引く構造不況の中での地域経済の低迷に加え、節水型水使用機器の普及（洗濯機、食器洗い機、水洗トイレ等）や市民のみなさまの節水意識の向上等が挙げられます。今後も給水量の減少は続くものと考えられます。

給水量の推移



### 第 3 章 水道事業の現状と課題

「安心」、「安定」、「持続」、「環境・技術協力」という 4 つの視点から次のような課題を抽出しました。

#### 1 安心

水道水質の状況

浄水水質は良好ですが、かび臭や塩素臭に改善の余地がありません。

給水装置の状況

鉛製給水管の更新や直結給水の拡大が課題です。

水質管理の状況

原水水質監視や給水水質監視の強化が必要です。

#### 2 安定

水源の安定性

水源の 3 分の 2 を吉野川に依存しており、非常用の水源の確保が必要と考えています。

水道施設の老朽度

現在稼働している施設の多くは第 3 期拡張事業で整備したもので、建設後約 30 ~ 40 年経過しており、老朽化が進んでいる施設が多くなっています。そのため定期的な点検・整備を実施し、必要に応じて計画的に更新していく必要があります。

水道施設の耐震性

拠点施設の耐震性が著しく低く、特に浄水施設の耐震率は 0 % です。震災時においてもライフラインとしての機能を確保するためには、地盤の液状化対策も含めた水道施設の耐震化が必要です。また徳島市水道の司令塔である水道庁舎は昭和 40 年に築造されているため、耐震性は低くなっています。

バックアップ能力

管路は事故・災害等による停止に対応するためのバックアップ能力が不十分であることが課題です。

応急給水能力

さらなる応急給水能力の拡充が必要です。

危機管理対策

危機管理マニュアルを作成し、より実践的な訓練の実施が必要と考えています。

### 3 持 続

組織	効率的な組織体制を整備することが必要です。
業務管理	さらなる業務の効率化や経費の節減などに努める必要があります。
財務	企業債残高、減価償却費、職員給与費の給水収益に対する割合が高くなっています。
お客様サービス	ホームページや広報紙を含めた広報、広聴の充実や各種手続サービスの拡充が課題です。

### 4 環境・技術協力

水資源の有効利用	管路更新を含め、漏水防止対策のさらなる強化が必要と考えます。
エネルギー利用	施設の更新時における省エネルギー対策や再生可能エネルギー等の導入を検討する必要があります。
資源のリサイクル	浄水発生土の有効利用や、建設副産物のリサイクルに積極的に取り組む必要があります。
技術協力	徳島県の県庁所在都市として、県内水道事業体の中心的役割を果たす必要があります。

## 第4章 徳島市水道の将来像および目標

水道事業経営の基本理念(将来像)を「水都・とくしまの信頼のライフライン」とし、「安心」、「安定」、「持続」、「環境・技術協力」の政策別に以下の目標を掲げ、今後事業経営に取り組めます。

### 将来像 水都・とくしまの信頼のライフライン

安心

安全・快適で安心できる給水の確保

安定

地震対策等の拡充

持続

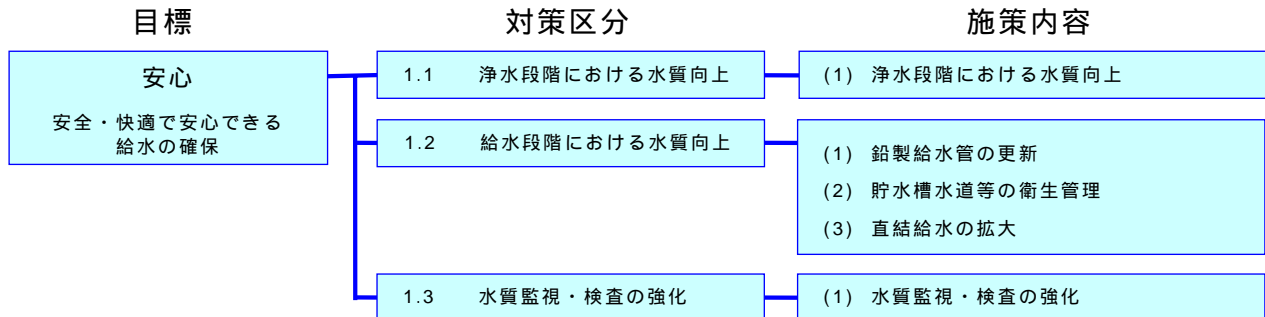
経営基盤の強化

環境・技術協力

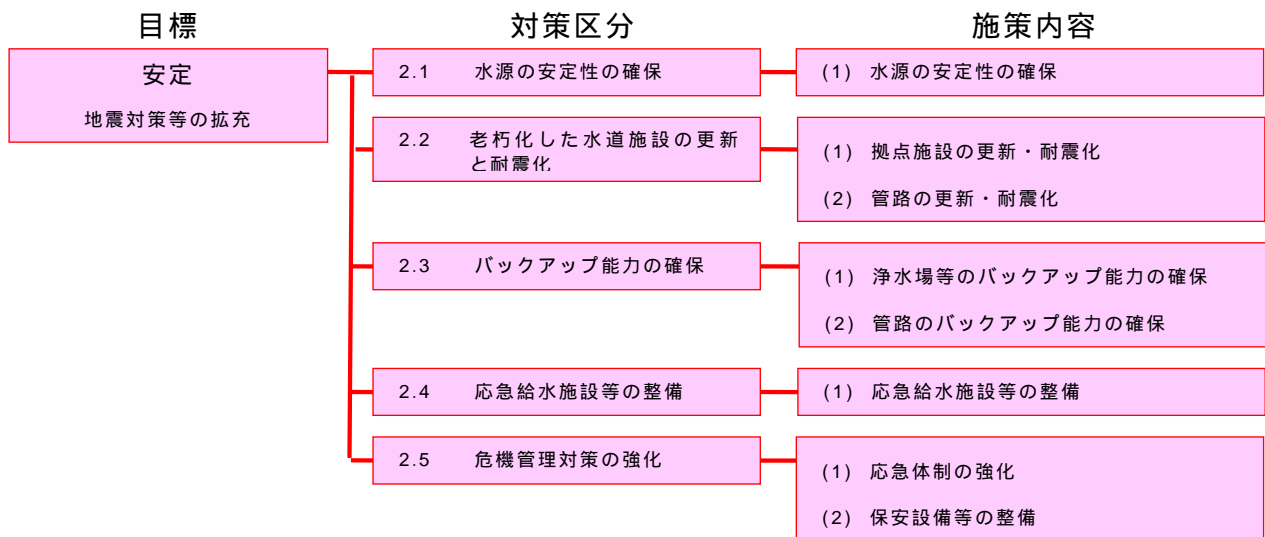
環境配慮と技術協力の推進

## 第5章 目標を実現するための施策

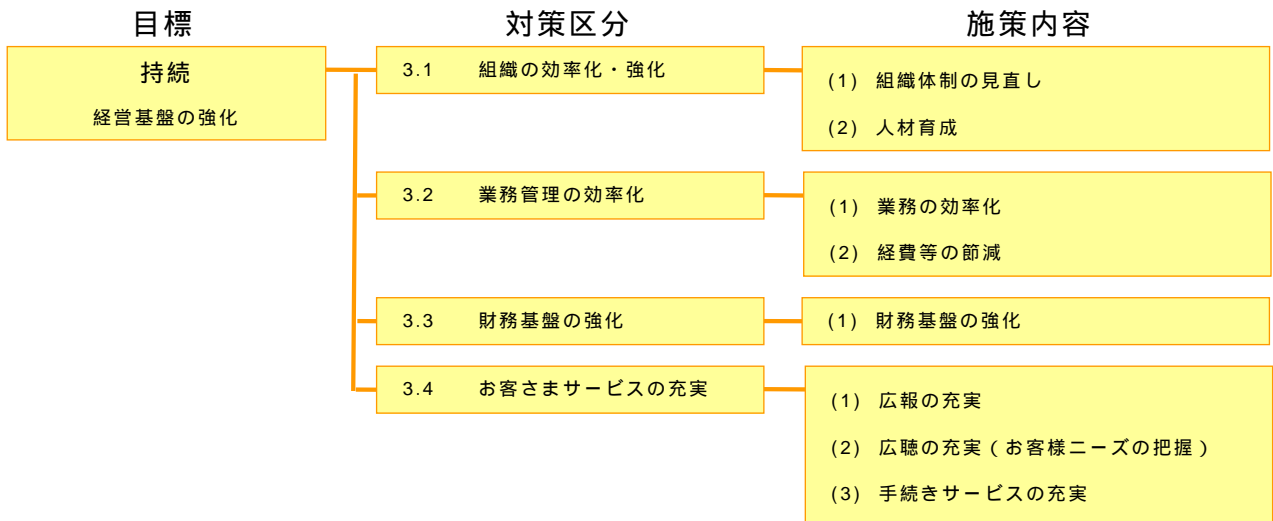
前章で掲げた将来像を実現するために、「安心」、「安定」、「持続」、「環境・技術協力」の各項目について具体的な施策は以下のとおりです。



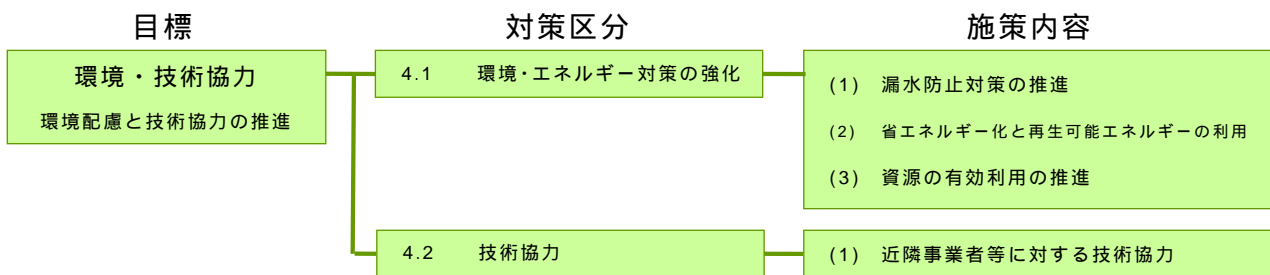
- ・ 浄水方法の検討（P S I）
- ・ 追加塩素注入施設の整備
- ・ 鉛製給水管の解消をするための補助金制度の創設
- ・ 小規模貯水槽水道の指導体制強化
- ・ 給水水質の自動監視の強化



- ・ 新たな非常用地下水源の調査及び検討
- ・ 耐震性の低い施設の耐震補強や更新
- ・ 大規模災害時の徳島市水道の司令塔としての水道庁舎の整備を検討
- ・ 系統間の融通を実現
- ・ 非常時のバックアップ能力の確保
- ・ 耐震管によるループ化
- ・ 非常用給水設備や緊急遮断弁の整備、応急給水資材の整備
- ・ 震災以外の危機管理マニュアルの策定



- ・ 職員数の削減も含め、効率的な組織体制を確立
- ・ より一層の業務の効率化を図るため外部委託の検討
- ・ 経費節減策や収入増加策の検討
- ・ 水需要の動向や社会状況を的確に把握し、健全な財政の確立
- ・ 広報・広聴の充実、手続きサービスの充実



- ・ 漏水防止対策推進による水資源の有効利用
- ・ エネルギー効率の高い施設への更新
- ・ 浄水発生土や建設副産物のリサイクルの拡充
- ・ 四国圏内等の水道事業者との交流や技術協力

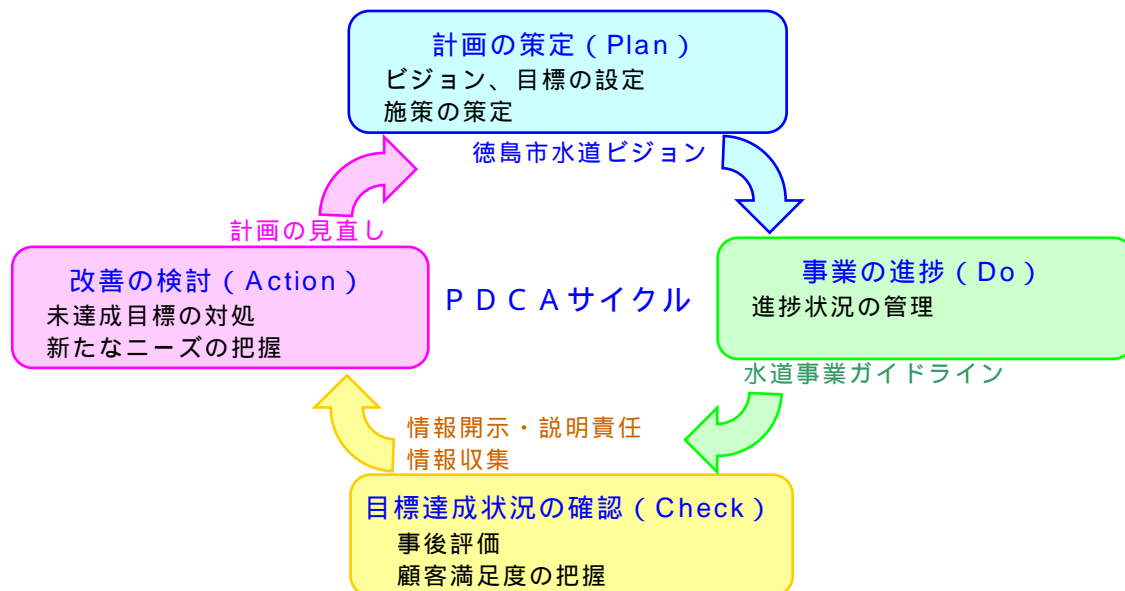
## 第 6 章 実施体制

徳島市水道ビジョンにおける将来像・目標を達成するため、施策の進捗状況と併せて事業の成果や効果を把握しておくことが重要です。

このため、下図に示す実施体制（PDCA サイクル）を活用し各施策を確実に効果的に実施します。

徳島市水道ビジョンでは、計画期間を平成 21 年度から平成 30 年度までの 10 か年としており、第 1 期（平成 21～平成 25 年度）、第 2 期（平成 26～平成 30 年度）に分けて各々が終わった段階で、審議委員会を設けて見直すこととし、評価結果は水道局のホームページなどで公表します。

### 徳島市水道ビジョンの実施体制



注) PDCA サイクルとは、取り組むべき施策を計画して実施し、その結果から、実施効果等を評価し、これらの情報を市民のみなさまに公表してご意見を頂き、それを以降の計画に反映し、より効果的に施策を進める手法です。